

慈眼堂古墳(川越市)

正面が古墳の上に建つ重要文化財の慈眼堂



アップで見る



左手に廻る



アップで見る



こちらが正面



アップで見る







天海僧正の木像が安置された厨子



重要文化財・建造物

慈眼堂

天海僧正は寛永二十年（一六四三）十月二日寛永寺において入寂し、慈眼大師の諡号をおくられた。そして三年後の正保二年（一六四五）には徳川家光の命によって御影堂が建てられ、厨子に入った天海僧正の木像が安置されたのが、この慈眼堂である。一名開山堂ともよび、桁行三間（五・四五M）、梁間三間で、背面一間通庇付の単層宝形造、本瓦葺となつている。宝形造は、四方の隅棟が一カ所に集まっている屋根のことで、隅棟の会するところに露盤があり、その上に宝珠が飾られている。

平成三年三月

埼玉県教育委員会

川越市教育委員会

左手に見えるのは歴代住職の墓



















さて、この古墳は前方後円墳で正面は前方部



ほぼ中央が「くびれ」部分



左手は後円部



そして堀跡が回っている





後円部の後方から見る



参考ホームページ

<http://sgkohun.world.coocan.jp/SAITAMA/kawagoe/zigando.htm>

http://www.asahi-net.or.jp/~fx3i-aid/kofun/saitama/19_kwge/kosenba2.html

<http://kofunnomori.web.fc2.com/saitama/kawagoe/jigen.htm>

